



証券コード：4299

株主メモ

| | |
|------------------------|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 定時株主総会基準日 | 毎年3月31日 |
| 剰余金の配当の基準日 | 毎年3月31日 (中間配当を行う場合は9月30日) |
| 単元株式数 | 100株 |
| 公告方法 | 電子公告 (公告掲載URL (http://www.himacs.jp) ただし、事故その他のやむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載して行う。) |
| 株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同事務取扱場所 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 |
| お問合せ先 | 東京都江東区東砂七丁目10番11号 (〒137-8081) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-232-711 (通話料無料) |

Web Information ホームページのご案内

当社のホームページでは株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報について、積極的に情報開示を行っております。当社をよりご理解いただくためにも、ぜひアクセスしてください。



スマートフォン及びタブレット端末でも見やすくなりました。



www.himacs.jp

証券コード：4299



株式会社 ハイマックス



第41期 第2四半期 決算のご報告

平成28年4月1日 - 平成28年9月30日

Business Report

株主の皆様のお声を聞かせてください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

右記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com> アクセスコード 4299

いいかぶ 検索

空メールによりURL自動返信 kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問合せ「e-株主リサーチ事務局」 TEL: 03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL: info@e-kabunushi.com



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



(注) QMS認証は、一括請負契約に係るコンピュータ・ソフトウェアの設計・開発、メンテナンスを範囲としております。
ISMS認証は、みなとみらい事業所に対し、コンピュータ・ソフトウェアの設計・開発、メンテナンスを範囲としております。



代表取締役社長 中島 太

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第41期第2四半期(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)の決算のご報告をお届けするにあたり一言ご挨拶申し上げます。

情報サービス産業におきましては、IoTやクラウドなどの技術革新の進展により、企業におけるIT活用の重要性が高まっております。

このような環境の下、当社グループは、当事業年度を初年度として策定した中長期経営計画『C4 2022』に則り、重点顧客を中心に既存領域の深耕及び隣接領域への展開に向けた積極的な提案営業を行うことなどにより、継続的な取引拡大に注力いたしました。その結果、クレジット業界のエンドユーザーとの直接取引が大幅に拡大したほか、保険業界向けをはじめとする既存マーケットの継続受注などにより、第2四半期の連結売上高としては、過去最高の売上高となりました。また、新規事業や海外事業の創出に取り組み、当第2四半期においては、新規事業のBtoCビジネスの第一弾としてスマートフォン向けに小学生がコンピュータの基礎を楽しく学べる教育

アプリケーション『トライビット』を開発しApp StoreとGoogle Playで配信を開始いたしました。

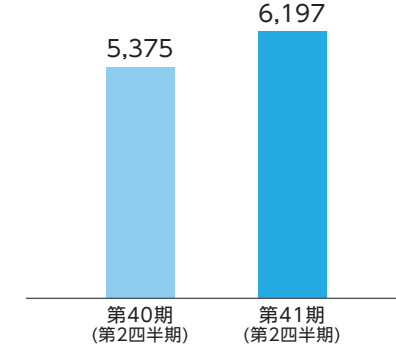
当第2四半期の当社グループの業績につきましては、連結売上高は6,197百万円(前年同四半期比15.3%増)、営業利益は454百万円(同14.3%増)、経常利益は459百万円(同13.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は304百万円(同17.2%増)と増収増益となりました。

また、株主の皆様のご支援にお応えするため、中間配当につきましては、1株につき20円の配当を実施することといたしました。今後も、持続的な成長と安定的な利益の確保に努めるとともに、株主の皆様に対して安定的かつ連結配当性向30%を目安とした適正な利益還元を継続してまいります。なお、今期(平成29年3月期)の年間配当金は、期末配当金20円と合わせ40円(予想連結配当性向32.2%)とし、3年連続の5円増配を計画しております。

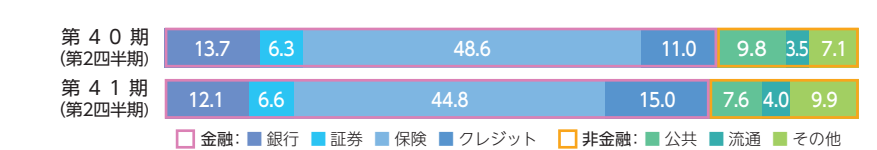
株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年12月

売上高 (単位:百万円)

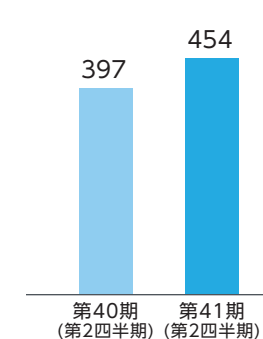


業種別売上高構成比率 (単位:%)

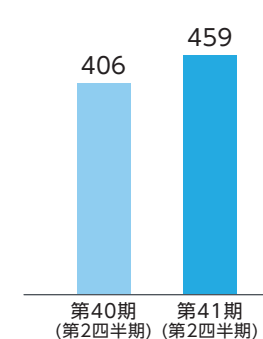


当第2四半期連結累計期間の売上高は、クレジット及びその他業種向けのプロジェクトが拡大したことなどにより、6,197百万円と15.3%の増収となりました。特にクレジット業界向けでは、エンドユーザーとの取引が拡大しました。ユーザーの業種別売上高構成比率は、金融向けが78.5%、非金融向けが21.5%となり、非金融向けの比率が前年同四半期(20.4%)と比べ1.1ポイント高まりました。

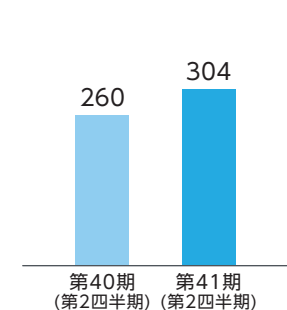
営業利益 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する四半期純利益 (単位:百万円)



採用の強化や人材育成及び新規事業など中長期経営計画の施策推進に対する投資費用が増加した一方、売上高の増加及び生産性の向上などにより、営業利益は14.3%増、経常利益は13.1%増、親会社株主に帰属する四半期純利益は17.2%と、それぞれ増益となりました。

平成29年3月期
連結業績予想

売上高

13,000百万円
(前期比17.8%増)

営業利益

910百万円
(前期比7.0%増)

経常利益

915百万円
(前期比9.4%増)

親会社株主に帰属する
当期純利益

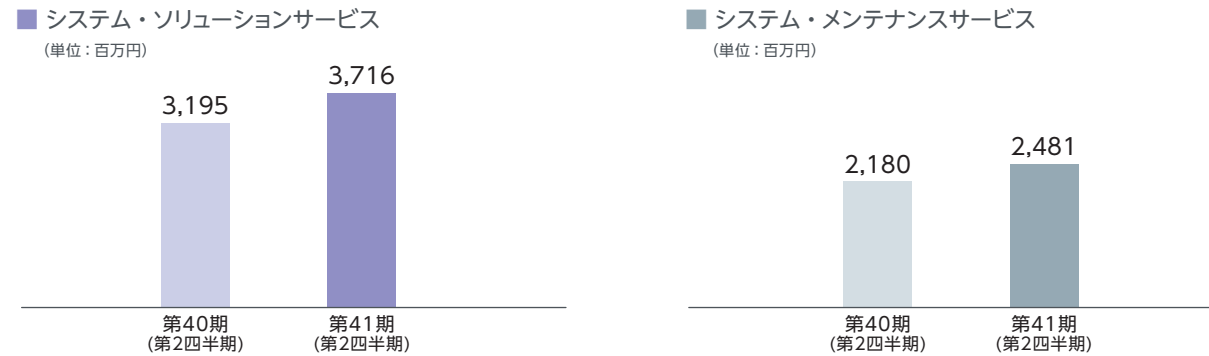
606百万円
(前期比12.9%増)

平成29年3月期の連結業績予想は、上記の通り、当初見通しから変更はございません。

売上高につきましては、保険及びクレジット並びにその他業種向けの案件の拡大などによる増収を見通しております。また、利益面につきましては、採用や実践的な人材育成などへの積極的な投資費用を織り込んだ上で、増益を確保してまいります。

(注)第41期通期予想は、平成28年11月2日開示時点のものです。業績予想は、当社が開示時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

〈サービス分野別売上高〉



システムの企画/設計・開発フェーズで提供するシステム・ソリューションサービスは、エンドユーザーのクレジット及びその他業界向けの案件が拡大したことなどにより、3,716百万円と16.3%増加しました。

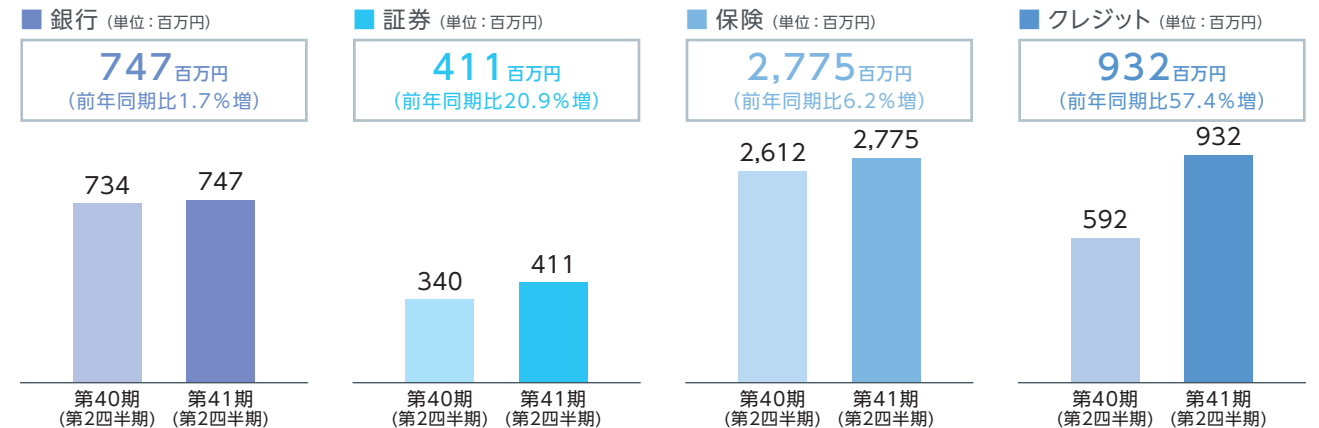
また、システムの稼働後に提供するシステム・メンテナンスサービスは、証券及び保険業界向け案件を継続的に保守フェーズで受注したことなどにより、2,481百万円と13.8%増加しました。



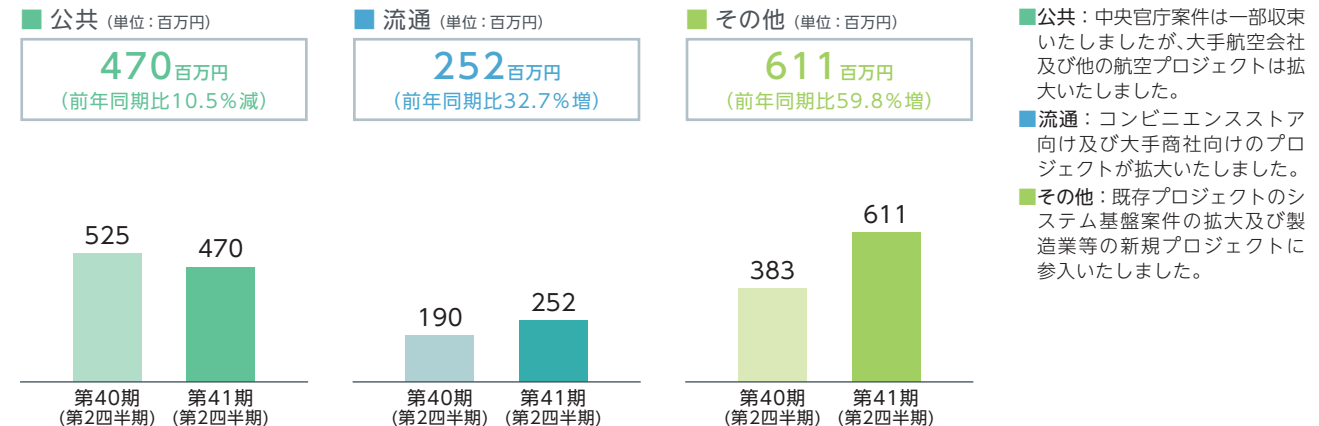
受注高は、6,237百万円と14.5%増加しました。その内訳は、システム・ソリューションサービスが3,837百万円(13.3%増)、システム・メンテナンスサービスが2,401百万円(16.6%増)であります。

受注残高は、2,181百万円と20.7%増加しました。その内訳は、システム・ソリューションサービスが1,364百万円(22.1%増)、システム・メンテナンスサービスが817百万円(18.5%増)であります。

〈業種別売上高〉



- 銀行：政府系金融機関案件が堅調に拡大いたしました。また、新規エンドユーザーとの取引も獲得いたしました。
- 証券：確定拠出年金向けのプロジェクトが引き続き拡大いたしました。また、既存エンドユーザー取引も堅調に受注いたしました。
- 保険：既存大型案件は、継続受注いたしました。また、システム基盤のプロジェクトが拡大いたしました。
- クレジット：既存エンドユーザー向けのプロジェクトが大幅に拡大いたしました。

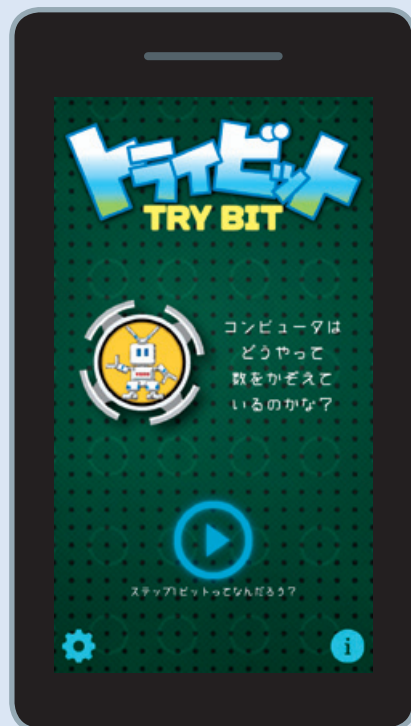


- 公共：中央官庁案件は一部収束いたしました。大手航空会社及び他の航空プロジェクトは拡大いたしました。
- 流通：コンビニエンスストア向け及び大手商社向けのプロジェクトが拡大いたしました。
- その他：既存プロジェクトのシステム基盤案件の拡大及び製造業等の新規プロジェクトに参入いたしました。

小学生がコンピュータの基礎を楽しく学べる教育アプリ 『トライビット』をリリース

当社は、2022年度を最終年度とする中長期経営計画『C4 2022』を策定し、今年度より、その計画の達成に向けて取り組んでいます。当計画における重要課題の1つが新規事業の創出です。その第一弾として、本年9月に小学生がコンピュータの基礎を楽しく学べるスマートフォン向けの教育アプリケーション(以下「教育アプリ」)『トライビット』を開発しApp StoreとGoogle Playで配信を開始しました。

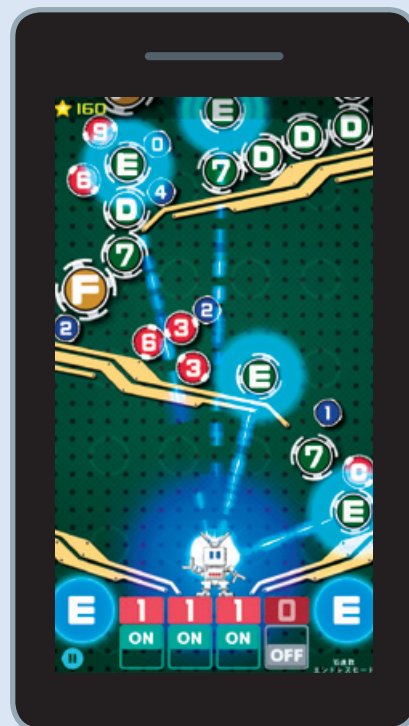
AI(人工知能)、ロボット、IoT(モノのインターネット)などの発展により、今後、社会や仕事の仕組みが大きく変わっていくことが見通されています。文部科学省は、IT人材を継続的に育成していくため、小学校での「プログラミング教育」の必修化に向けて、2020年度から実施される次期学習指導要領に反映するよう検討を進めています。また、日本のみならず先進諸国では、プログラミング教育を初等教育から導入する機運が高まっています。



タイトル画面



チュートリアル画面



アクションゲーム画面

このような中で、低年齢層向けのプログラミングやコンピュータ教育向けのアプリは、既に数多く配信されていますが、当社が開発した『トライビット』は、'重要性の高い項目をシンプルに分かり易く' また、'単なる暗記学習ではなく、楽しみながら理解を深める' ことを主眼に開発した教育アプリです。『トライビット』は、コンピュータ技術に携わる人は必ず会得する必要がある「2進数」と「16進数」について学習することができます。また、アクションゲームを通じて、感覚的に楽しく覚えることができる内容となっています。おかげさまで、『トライビット』は、App Storeのベストアプリに紹介されました。

今後も第二・第三弾の小学生向けの教育アプリの開発・配信を予定しています。当社は、教育アプリの開発を通じて、ますます高度化する情報化社会の未来を担うIT人材の育成に貢献していきたいと考えています。

TOPICS ①

当社は、「次世代認定マーク」を取得しました



当社は、本年9月に「次世代育成支援対策推進法」に基づき、子育てサポート企業としての認定を受け、「次世代認定マーク」(愛称:くるみん)を取得いたしました。

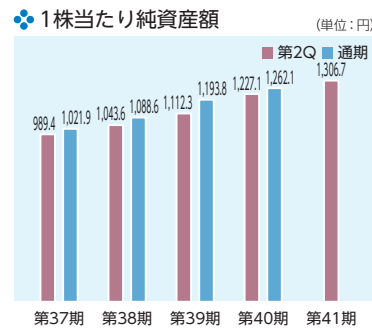
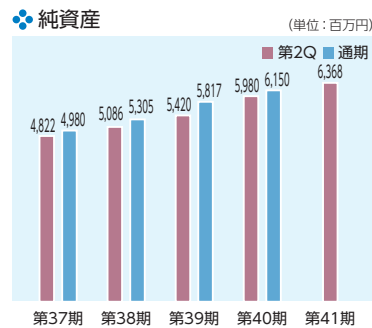
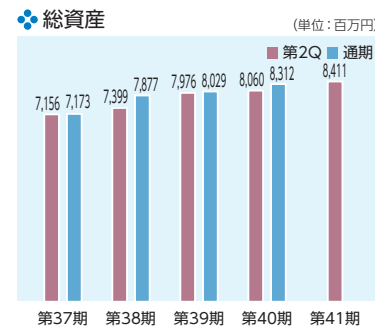
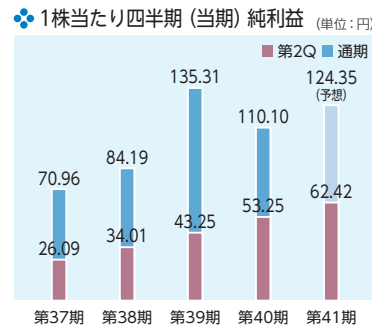
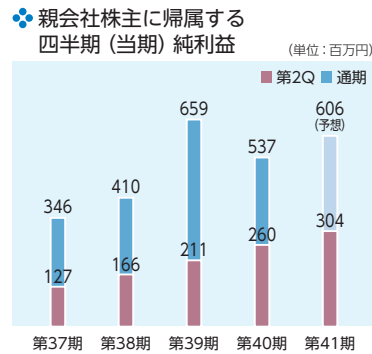
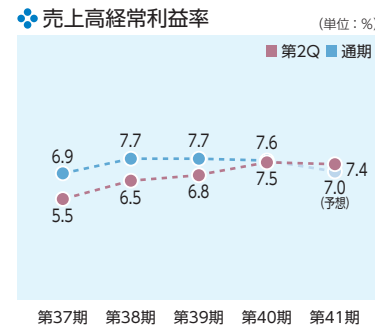
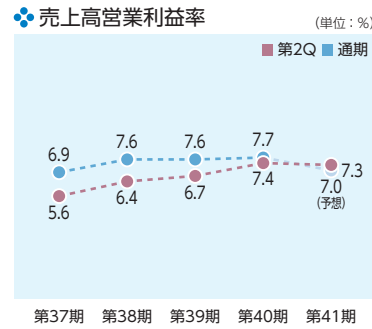
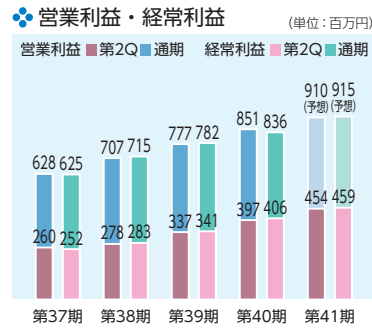
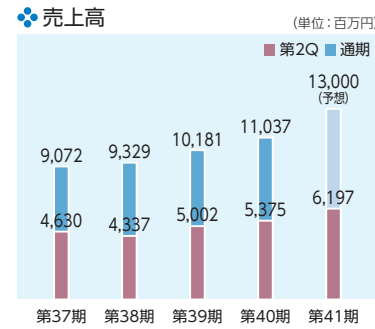
この認定は、子育てサポートに関する取り組み(一般事業主行動計画)において、計画に定めた目標を達成し、一定の基準を満たしている企業に与えられるものです。今後も社員が仕事と子育てを両立することができ、その能力を十分に発揮できる職場環境づくりに向け取り組んでまいります。

TOPICS ②

第10回「ベスト・ワーキング・ウーマン表彰」を受賞しました

女性が長く働き続けられることを目的に、一般社団法人神奈川県情報サービス産業協会は毎年、「ベスト・ワーキング・ウーマン表彰」を実施しております。

本年6月、当社社員2名が「貢献賞」及び「キャリアアップ賞」を受賞いたしました。貢献賞は、会社の業績向上や人材育成に努め、お客様及び社内で高い信頼がある方に、キャリアアップ賞は、有能であり実力を発揮している方に対して贈られるものです。



四半期 連結貸借対照表 (抜粋)

(単位: 百万円)

| | 前期 H28.3.31現在 | 当第2四半期 H28.9.30現在 | 比較増減 |
|-------------|------------------|----------------------|------|
| ① 資産合計 | 8,312 | 8,411 | 99 |
| 流動資産 | 6,141 | 6,539 | 397 |
| 固定資産 | 2,171 | 1,872 | △299 |
| ② 負債合計 | 2,162 | 2,043 | △119 |
| 流動負債 | 1,706 | 1,692 | △13 |
| 固定負債 | 456 | 351 | △106 |
| ③ 純資産合計 | 6,150 | 6,368 | 218 |
| 株主資本 | 6,160 | 6,371 | 212 |
| その他の包括利益累計額 | △9 | △3 | 6 |

四半期 連結損益計算書 (抜粋)

(単位: 百万円)

| | 前第2四半期 H27.4.1からH27.9.30まで | 当第2四半期 H28.4.1からH28.9.30まで | 比較増減 |
|------------------|-------------------------------|-------------------------------|------|
| 売上高 | 5,375 | 6,197 | 822 |
| 売上原価 | 4,388 | 5,041 | 653 |
| 売上総利益 | 987 | 1,156 | 170 |
| 販売費及び一般管理費 | 590 | 703 | 113 |
| 営業利益 | 397 | 454 | 57 |
| 経常利益 | 406 | 459 | 53 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 406 | 459 | 53 |
| 法人税等 | 146 | 155 | 8 |
| 四半期純利益 | 260 | 304 | 45 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 260 | 304 | 45 |

四半期 連結キャッシュ・フロー計算書 (抜粋)

(単位: 百万円)

| | 前第2四半期 H27.4.1からH27.9.30まで | 当第2四半期 H28.4.1からH28.9.30まで | 比較増減 |
|---------------------|-------------------------------|-------------------------------|------|
| ④ 営業活動によるキャッシュ・フロー | 177 | 94 | △83 |
| ④ 投資活動によるキャッシュ・フロー | △1 | △24 | △23 |
| ④ 財務活動によるキャッシュ・フロー | △85 | △93 | △7 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 91 | △22 | △113 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 3,288 | 3,310 | 23 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 3,379 | 3,288 | △91 |

① 資産

資産合計は8,411百万円と前連結会計年度末(8,312百万円)と比較し99百万円増加しました。主な要因は、長期預金が300百万円減少するなど固定資産が299百万円減少いたしましたが、現金及び預金が278百万円、売掛金が97百万円、それぞれ増加するなど流動資産が397百万円増加したことによるものであります。

② 負債

負債合計は2,043百万円と前連結会計年度末(2,162百万円)と比較し119百万円減少しました。主な要因は、固定負債のその他に含まれている長期未払金が114百万円減少するなど固定負債が106百万円減少したことによるものであります。

③ 純資産

純資産合計は6,368百万円と前連結会計年度末(6,150百万円)と比較し218百万円増加しました。主な要因は、利益剰余金が212百万円増加し、株主資本が212百万円増加したことによるものであります。

④ キャッシュ・フロー

〈営業活動によるキャッシュ・フロー〉
営業活動によるキャッシュ・フローは、94百万円(前年同四半期連結累計期間177百万円)となりました。これは、税金等調整前四半期純利益459百万円などによる資金増加から、長期未払金の減少△114百万円及び売上債権の増加△97百万円並びに法人税等の支払額△135百万円などによる資金減少があった結果であります。

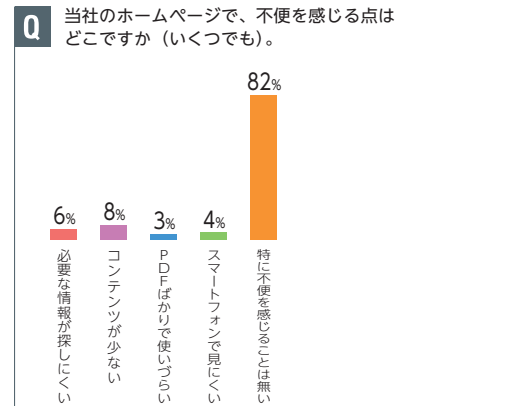
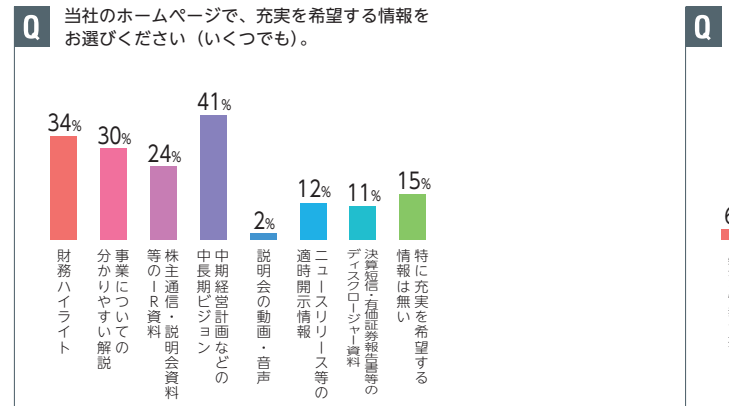
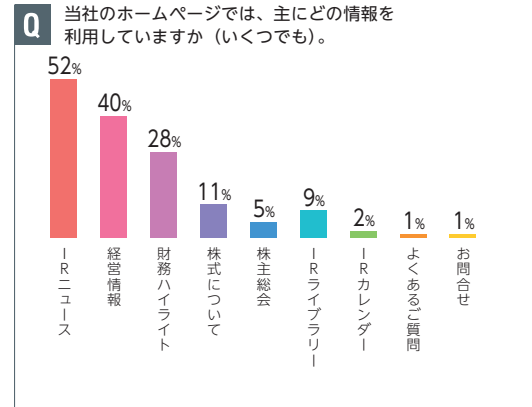
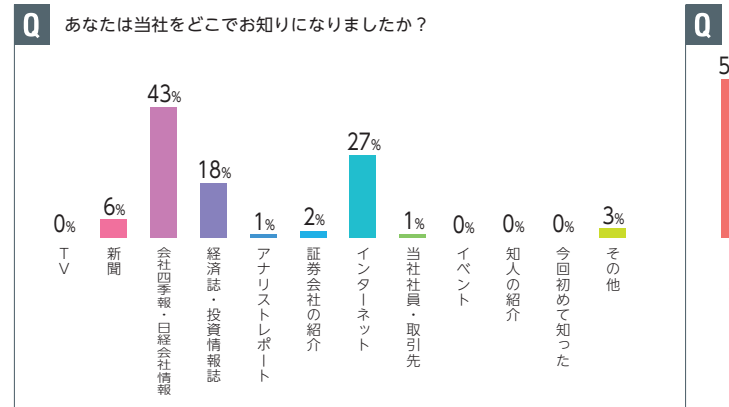
〈投資活動によるキャッシュ・フロー〉
投資活動によるキャッシュ・フローは、△24百万円(前年同四半期連結累計期間△1百万円)となりました。これは、有形及び無形固定資産の取得による支出△21百万円などによる資金減少があった結果であります。

〈財務活動によるキャッシュ・フロー〉
財務活動によるキャッシュ・フローは、△93百万円(前年同四半期連結累計期間△85百万円)となりました。これは、配当金の支払額△93百万円によるものであります。

アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

「第40期 決算のご報告」にて実施いたしましたアンケートにつきましては、105名の株主様よりご回答いただきました。ここにアンケートの集計結果の一部をご報告いたします。当社では貴重なご意見として、今後の活動へ反映させるべく努めてまいります。

これからも引き続きアンケートにご協力の程、お願い申し上げます。



株式の状況 (平成28年9月30日現在)

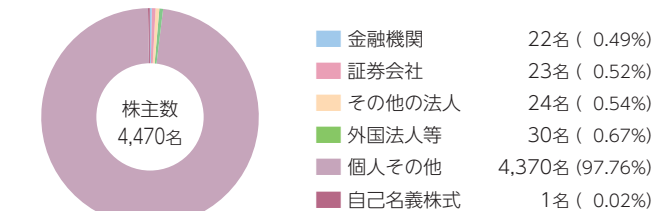
● 大株主

| 株主名 | 持株数 | 持株比率 |
|-----------------------|-----------|-------|
| ハイマックス社員持株会 | 358,423 株 | 7.3 % |
| 前田眞也 | 356,858 | 7.3 |
| 株式会社前田計画研究所 | 312,496 | 6.4 |
| 山本昌平 | 277,080 | 5.6 |
| 株式会社野村総合研究所 | 237,600 | 4.8 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 219,600 | 4.5 |
| 日本生命保険相互会社 | 176,200 | 3.6 |
| 富国生命保険相互会社 | 140,400 | 2.8 |
| 株式会社みずほ銀行 | 140,000 | 2.8 |
| GOLDMAN, SACHS&CO.REG | 135,000 | 2.7 |

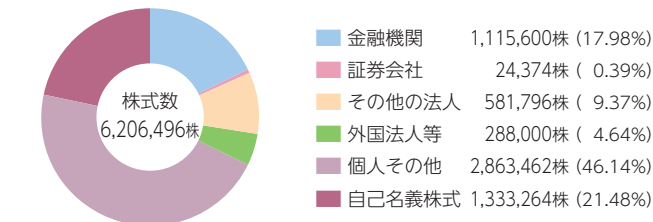
(注) 持株比率は自己株式 (1,333,264株) を控除して計算しております。

| | |
|----------|-------------|
| 発行可能株式総数 | 18,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 6,206,496株 |
| 株主数 | 4,470名 |

● 所有者別株主数構成比



● 所有者別株式数構成比



会社概要 (平成28年9月30日現在)

| | |
|-------|--|
| 商号 | 株式会社ハイマックス HIMACS, Ltd. |
| 本社所在地 | 〒231-0005 横浜市中区本町二丁目22番地 TEL 045-201-6655 (代表) |
| 設立 | 昭和51年5月21日 |
| 資本金 | 6億8,904万円 |
| 従業員数 | 663名 |
| 事業内容 | コンピュータ・ソフトウェアのシステム化計画の企画から、設計・開発、稼働後のメンテナンスまでのシステム・ライフサイクルの各領域にわたり高付加価値ソリューションを提供する事業を行っております。 |
| 事業所 | みなとみらい事業所 |

役員 (平成28年9月30日現在)

● 取締役及び監査役

| | | |
|-----------|-------|-----|
| 取締役 会長 | 山本 昌平 | 平太朗 |
| 代表取締役 社長 | 中島 義勝 | 利美二 |
| 取締役 | 鍋嶋 政修 | 秀彦 |
| 取締役 | 堀越 角宏 | 幸夫 |
| 取締役 | 舘野 隆 | 二幸 |
| 取締役 | 青木 隆 | 俊治 |
| 常勤監査役 | 青木 隆 | 俊彦 |
| 監査役 (非常勤) | 青木 隆 | 俊彦 |
| 監査役 (非常勤) | 山本 章治 | 俊彦 |
| 監査役 (非常勤) | 山本 章治 | 俊彦 |

※1 堀越 政美、舘野 修二、角 宏幸は社外取締役です。
※2 青木 勝彦、山本 章治は社外監査役です。

● 執行役員

| | | |
|---------|-------|----|
| 副社長執行役員 | 鍋嶋 義明 | 利行 |
| 副社長執行役員 | 豊田 勝 | 隆行 |
| 常務執行役員 | 青木 隆 | 由紀 |
| 執行役員 | 田邊 隆 | 純一 |
| 執行役員 | 岡田 通 | 美久 |
| 執行役員 | 大河原 川 | 正 |
| 執行役員 | 石生 田 | 正 |
| 執行役員 | 川島 正 | 久 |